

【第一部】象学の沿革

第一章 象学の構造と展開	2
★ 易との構造	2
◎ 天地の学	2
◎ 周易	4
— 四象、八卦	
◎ 五行易	11
— 五行、木、火、土、金、水	
★ 諸子による展開と譲り受け	16
◎ 鬼谷子	16
— 右方の門曰、擲錢法、同左車	
◎ 孫子	21
— 愚狂	
◎ 孔明	24
— 得失、兵經	
◎ 道教	28
— 導引、胎息、辟穀と服食	
◎ 闢祖に担がれた黄帝	30
— 黄帝	
◎ 老子	32

第11章 古事記の思想	36
★ 古事記の成立と意義	36
◎ 構成と歴史	39
◎ 序について	40
◎ 高天原の神々	41
◎ 神々と國生み	44
◎ 神世七代	44
◎ 二神の相婚と御子の意義	45
◎ 神々の語義	50
— 岐、美、伊	
★ 死の国、生の国	54
◎ 薙	54
◎ 朝鮮の風水	55
◎ 房中術	57
◎ 火神と黄泉国	60
◎ 桃	62
◎ 中	62
◎ 天津神と国津神	67
— 賢子の分治	
◎ 天照大神	68
— 高天原	
◎ 円誦命	70

[参考文献] 第1章～第11章の各節に記載した参考文献は、本文の注釈欄に記載されています。

【第一部】象学の基礎

第一章 時と曆	104
★ 象曆	104
◎ 日本曆	109
◎ 陽遁、陰遁	112
◎ 識緯説	115
◎ 十用	120

第三章 九氣・易の定盤の構成	158
★ 九氣の先天・後天の定盤	158
◎ 先天と後天	158
◎ 偏位直觀數字	168
★ 易の構成	
◎ 陰陽	172
◎ 易の數理	176

◎	九氣の主な体用	177
◎	I 丘水性	177
◎	II 黒土性	178
◎	III 鹿木性	178
◎	IV 緑木性	178
◎	V 落土性	178
◎	VI 金性	179
◎	七赤金性	179
◎	八白土性	179
◎	九紫火性	180
★	鬼門	180
◎	比叡山	181
◎	寛永寺	182
◎	鬼門の占体	182

◎	火	218
◎	風	219
◎	離鏡	221
◎	遁世	224
◎	火性の數	225
◎	太陽活動	226
★	水	228
◎	水性の數	230
—	六	230
◎	木	233
—	丘火黒	233
◎	酉方	235
—	陰陽三昧、靈魂不滅	235

◎	四社推命学	199
—	金木の大運、大運の換玉	199
◎	十幹の意義	202
—	母、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	202

第四章	幹枝学原義	187
★	象界から暗示	187
★	朱子學と陽明學との差	190
	◎格物致知	192
	—良心、自我	192
★	幹枝字	195
	◎天源幹枝	197
	—胎年の陰生法	197

[第1部] 象学の本質と実際 243

第一章	象を觀る	244
★	象を観る	244
◎	ハナ	245

◎	ヘ	246
★	象卦の振舞	248
	声の色	254
◎	姓名	255
◎	法音	256
★	火山の噴火	258
◎	山伊祖	258
◎	川原口	259
—	胎年	259
—	争議	263
★	主命・副命の順序と開創の體察	263
—	主命・副命の順序と開創の體察	263
◎	第一感運期	264
◎	第二感運期	264
◎	第三感運期	265
◎	第四感運期	265
◎	第五感運期	269
◎	第一衰運期	270
◎	第二衰運期	274
◎	第三衰運期	275
◎	第四衰運期	277
◎	第五衰運期	280
★	主命・副命の方位との占別	283
◎	方位	283

◎	九氣の主な体用	177
---	---------	-----

目次